

マレーシア映画文化研究会について

篠崎香織

P.ラムリーの死後、マレーシアで制作される映画はマレー語によるマレー人のための映画ばかりとなっていました。昨今は新たな動きが見られます。2000年頃から、ヤスミン・アフマド監督作品に代表されるように、マレーシアの多民族性・多文化性や混血性を積極的に描く映画が制作されています。

「マレーシア映画の新潮流」と呼ばれるこれらの作品は、マレーシア国内では上映の機会が実質的に制限される一方で、日本や世界各地の国際映画祭に出品され、高い評価を受けています。「新潮流」の作品の多くは、自らの現実に根ざした「マレーシアらしさ」をそれぞれに描きつつも、マレーシアをほとんど知らない観客を相手に、自らのマレーシアでの現実を普遍的な課題やテーマとして提示する工夫をしています。そのことが、国際的な評価の背景となっています。

海外で高く評価された作品は、マレーシア国内でも注目され、マレーシア国内で上映の機会を得ることが多々あります。そうした中で、多数派中心的な社会のあり方とは異なるマレーシア社会の表象が、徐々にマレーシア国内で居場所を確保しつつあります。昨今マレーシアでは、観光の促進や世界文化遺産の登録に見られるように、多民族性・多文化性をアピールすることで世界に存在感を示そうとする試みが官民をあげて顕著となっています。そのなかで、多民族性・多文化性を積極的に押し出し、多数派中心的ではない社会のあり方を拡大しようとする試みも活発化しています。同様の状況は、まさに映画の分野でも進展しつつあります。

さらには、マレーシアの枠を越えてアジア各国の映画人と協働し、文化や民族、国籍など様々なレベルで混成的なアジアを描くマレーシア人の映画

人もいます。

マレーシア映画文化研究会は、マレーシア映画を取り巻く昨今の状況をとらえるとともに、マレーシア映画をより楽しんでもらえるようにマレーシアの文脈に即して映画を読み解き、それを発信する試みを行っています。2010年度～2011年度は、京大大学地域研究統合情報センター共同研究「大衆文化のグローバル化に見る包摂と排除の諸相——マレーシア映画を事例として」(研究代表者:篠崎香織)と合同で活動を行っています。これまでの主な活動は、以下の通りです。

(1) ブックレットの刊行

- ・『マレーシア映画を読む① レインドッグ』(2010年7月)
- ・『ヤスミン・アフマドの世界① タレントタイム』(2010年8月)
- ・『マレーシア映画の新潮流① タン・チュイムイ』(2010年11月)
- ・『ヤスミン・アフマドの世界② 細い目／グブラ／ムクシン』(2011年1月)
- ・『ヤスミン・アフマドの世界③ ムアラフ／ラブン』(2011年7月)

(2) 公開シンポジウム

- ・「ヤスミンの残したもの・それを受け継ぐ者たち——マレーシア映画から見える世界」(2010年7月25日、立教大学池袋キャンパス)
- ・「アジアン・ビッグバン——マレーシア発のアジア映画の新星たち」(2010年9月18日、エルガーラホール)
- ・「映画『歓待』をテツガクする——主客不分明の時

代における包摂と排除」(2011年3月13日、AP
梅田大阪)

今後の活動として、以下のシンポジウムを予定
しています。

- ・『『女性らしさ』の冒険——『愛しい母』ヤスミン・ア
フマドの思い出とともに」(2011年7月31日
13:30-16:30、京都大学芝蘭会館山内ホール、事
前申し込みが必要)
- ・「アジア的ホラー・コメディの可能性」(アジアフォ
ークス・福岡国際映画祭アジア映画文化フォーラ
ム第2部、2011年9月18日15:30-17:00、JR博
多シティ10階大会議室)

これ以降も、日本国内で行われる国際映画祭や
マレーシア映画の特集上映などに合わせて、出版
やシンポジウムの開催を予定しています。JAMSメ
ーリングリストにてご案内申し上げますので、皆様
にお越しいただければ幸いです。研究会HP
(<http://malaysia.movie.cocacn.jp/>)も合わせて
ご参照くださいませ。

問合せ先：山本博之（代表者）、篠崎香織
(2010-2011年度幹事)

【マレーシア映画文化研究会は2011年7月よ
りJAMS連携研究会になりました。(編集部)】